

とみらいテラス 雑感

TOMIRAI TERRACE

とみらいテラス館長が読書に関する雑多な感想を書き綴ります。読書のこだわりや得意分野についてわかるかも…？

とみらいテラス雑感 vol.1

読書との出会い

私が小学校5・6年生か中学校1年生の頃、赤川次郎先生の『三毛猫ホームズ』シリーズや『三姉妹探偵団』シリーズを、妹が読んでいたものを拝借して以来、40年以上の読書歴になりますが、そろそろ断捨離を考え始めて、衣服とともに本棚の整理を行い始めました。

さすがに妹の所有物であったこれらのシリーズは手元にはないものの、文芸作品や古典類、はたまた雑学や何に分類すべきか分からないものまで、多種多様な書籍を購入して本棚に並べてきたものだと、ちょっとした感慨を抱いた今日この頃です。

これらの書籍を整理しながら、簡単なリストを作成していますが、当然のことながら、ある時期集中して読んだ作家や、自分に足りない知識を得ようとしていたことが見えてきて、さながら、私の人生の縮図のように感じてもあります。

さて、そのような中で、ふと思ったことがあります。私は果たして「読書好き」だったのだろうか？いやいや「ビブリオマニア」という領域に足を踏み入れているのだろうか？

単に「読書好き」といってもピンキリで、じっくり物語を楽しむ人もいれば、ともすれば「活字中毒」とも呼べる驚異的なスピードで何冊も読まれる人もいるでしょう。私は、マニア的な部分を持ち合わせてはいるものの、そこまで気合が入っている訳でもなく、気に入れば集中して読んでしまうし、時には忙しさにまかせて、読書をしない時間が長くなる一般的な人でしかないのでしょうか。

しかしながら、読書によって得られた知識や感性は、少なからず私の一部となっていて、恐らく自分の思考に影響を与えていると思っています。

その端緒として冒頭で触れた赤川次郎先生のシリーズは、小学校高学年や中学生で、読書が苦手だなという人にもお勧めできるので、興味を持った児童・生徒の皆さんや、この年頃のお子様がいらっしゃる親御さんは、是非とも試しに手に取っていただけたら幸いです。

今後とも思いのままに、何かしらの書籍の紹介や歴史や文化、芸術に関する事柄を、文章としてお届けできたらと考えております……

が、前述したとおり、マニア的素養はあるものの、気合が入っていないので、『とみらいテラス雑感』を続けるために、誰かに援軍を頼むことがあるかもしれませんが、そこは笑って流して下さいませ。

とみらいテラス雑感 vol.2

マニア的素養

前回、私のマニア的素養について、「私は、マニア的な部分を持ち合わせてはいるものの、……」程度で詳細は語りませんでした。今回はその辺のお話になります。

断捨離している書籍のリストを眺めると、いくつかの点が軽くマニア的だなと感じた程度のものなので、本物のビブリアオマニアの方々からすれば、片腹痛い話になると思います。ご容赦のほどをお願いいたします。

まず、ひとつ目は「著者」へのこだわりとなります。

前回でも取り上げた赤川次郎先生も、結構読み漁った時期がありましたし、その後は、田中芳樹先生の『銀河英雄伝説』に端を発した読み漁りや、『夜のピクニック』からの恩田陸先生、『図書館戦争』からの有川浩先生など、ひとつの作品との出会いから、その著者の他の作品へと繋がるパターンがあります。

これは、小説だけではなく、歴史の解釈などを記した倉山満先生の『並べて学べば面白すぎる世界史と日本史』や宮脇淳子先生の『皇帝たちの中国史』なども、きっかけとなった書籍はいくつもあります。

また、ここから派生して、関連するジャンルで他の作家が書いたものに飛び火してしまったり、参考文献から読んでみたいものを見つけるなんてことも、しばしばあったりしたことを思い出しました。

ふたつ目は、「第1刷」が多いのもマニア的だと感じるころですね。

書店で出会った作品が、たまたま初版の第1刷だったケースもありますが、その後に発売日を心待ちにしていた記憶があり、これも一種のこだわりなのかもしれませんね。

今ほどインターネットを活用していなかった時期には、書店に足しげく通っていた気がします……

ということで、当然新刊であれば「帯」がつくケースが多いと思います。これが、みつつ目のこだわりになるのだと思います。

今回の断捨離で、改めて感じたのは、「帯」付きの書籍が多いというものです。

読んでいる時には、邪魔でしかない「帯」ですが、何故かこれを取っておいて、本棚には「帯」付きで並べるのが、習慣的になっています。同様に書籍に挟まれている「新刊案内」も、同時にしまっているケースがあり、捨てられない症候群の片鱗が垣間見えた瞬間でもありました。